

チャリティー事業

アートや文化にかかる多方面の方たちのご協力を得て行っています。その多くが半世紀以上続く催しです。

●朝日チャリティー美術展 東京・名古屋・大阪

関東大震災の被災者救援を目的に始まり、東京では開催94回を数えます。一流の美術家や著名人に作品提供などのご協力をいただいています。

●メサイア演奏会 12月 東京

ヘンデルが作曲し、チャリティー目的以外での上演は認めなかった作品「メサイア」の全曲を、東京藝術大学の声楽科で学ぶ学生約170人が歌い上げます。

●各流合同茶会 3月 大阪

関西を中心に活動する各流派の茶道宗匠の協力を得て、初心者でも手軽に各流派のお茶が楽しめる茶会です。春の恒例行事として開催し、多くの方が訪れます。

●各派合同三曲演奏会 11月 大阪

西日本の琴・三絃・尺八の世界で活躍する邦楽の各派社中が競演する合同演奏会です。18年は、大阪、兵庫、奈良の各高校で部活動を通じて邦楽に親しんでいる生徒たち62人が、西日本豪雨災害の復興支援のために特別に参加し合同で演奏しました。

●親子で楽しむクリスマスコンサート 12月 東京

保育園や幼稚園で人気の歌「にじ」などを作った中川ひろたかさんらが、あそびうたや体操、ダンスなど、大人も子どもも楽しめる盛りだくさんのステージです。

●洋舞合同祭 12月 大阪

関西でモダンダンスやクラシックバレエに打ち込む児童や大人のチーム総勢約千人が、歳末の3日間にわたり華やかなステージを繰り広げます。

各種ガイドブックやDVDの販売

高次脳機能障害や認知症、人生最期の暮らしや遺言に関する書籍や、自閉症の人たちを理解し、適切に支援する方法を紹介したDVDなどを作成、販売しています。

お問い合わせ先（本部・東京）

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL 03(5540)7446 FAX 03(5565)1643
平日 10時～17時30分



イベントカレンダー

ご興味のある方は、事務所までお問い合わせください。

2019

7

19・20

朝日夏季保育大学
(長野県諏訪市・市文化センター)

8

24

第36回全国高校生の手話による
スピーチコンテスト
(東京・有楽町朝日ホール)

9

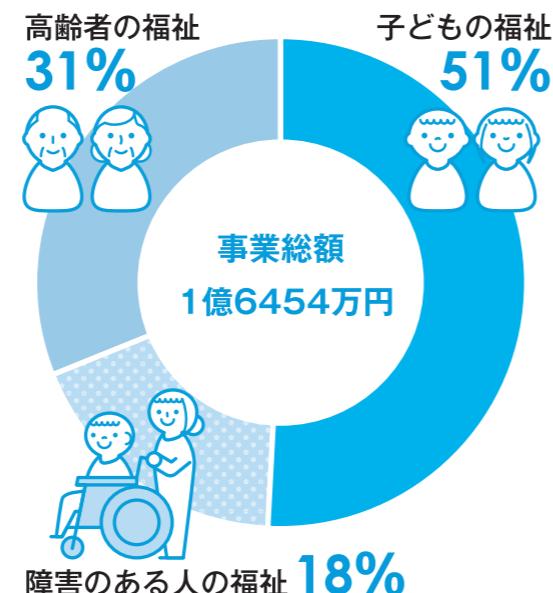
29

自閉症カンファレンスNIPPON
(東京・早稲田大学)

朝日こどもの未来 北陸ブロック大会
(富山市・富山県民会館)

皆さまからのご寄付は 以下のような事業に使われます

2019年度事業予算、
東日本大震災救援事業を含みます



古本募金を始めました！

朝日新聞厚生文化事業団 古本募金は、皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額が朝日新聞厚生文化事業団に寄付される取り組みです。

お申込み・お問い合わせ

朝日新聞 古本募金 検索

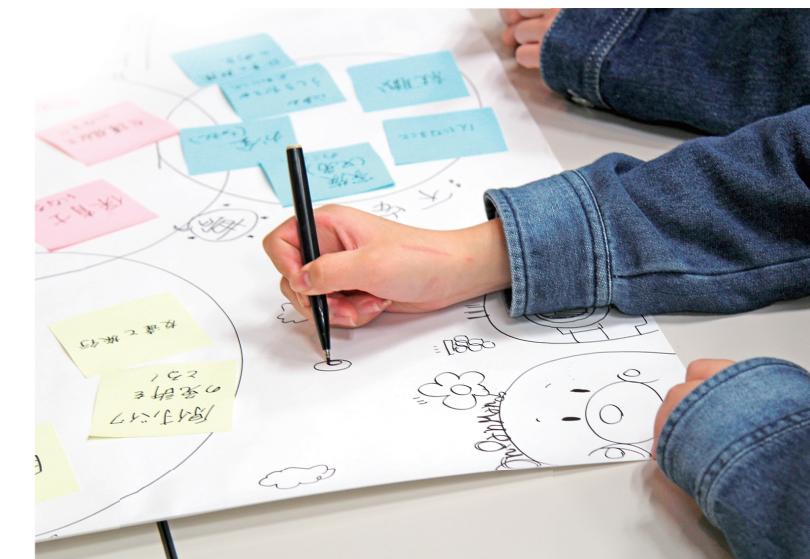
または右のQRコードからどうぞ

朝日の 社会福祉だより

Asahi Welfare Letter

発行 朝日新聞厚生文化事業団 〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
ホームページ <http://www.asahi-welfare.or.jp/>
E-mail mail@asahi-welfare.or.jp

朝日新聞厚生文化事業団のHPでもさまざまなお知らせを発信しております。アクセスは右のQRコードからどうぞ



夢に向かって ともに学ぼう

高校生進学応援金・進学応援生のつどい

児童養護施設や里親家庭などの社会的養護で暮らし、将来に向けて大学や専門学校に進学を志す高校生に対して応援金を贈る「児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金」は、19年度生で11回目となりました。この事業は入学金に加え「学生応援金」として年間60万円（最大360万円）を卒業するまで贈るもので、本内容での事業実施は3年目を迎えました。19年度生からは自立援助ホームで暮らす若者も対象としています。

先輩たちからエール

3月には入学を前に1泊2日の「進学応援生のつどい」を実施しました。19年度の内定者51人のうち、辞退者など19人を除く32人と、16・17年度の先輩応援生9人が参加しました。

初日はまず神奈川県横須賀市にある無人島「猿島」で、参加者全員が6グループに分かれ、島内を歩き回りながら隠された「宝箱の鍵」を見つけるプログラムに取り組み、初対面の緊張をほぐしました。

宿泊先では先輩応援生たちがグループトークを企画。学生生活に関する先輩3人の体験談を聞きました。その後数人のグループで「進学先でしてみたいこと、頑張りたいこと」「新しい生活で不安なこと」「先輩に質問した

こと」などテーマごとにそれぞれの考え方や思いを伝え合い、最後に発表しました。翌日は横浜市で横浜中華街の観光などを楽しみながら交流を深めました。

応援生たちが今回のつどいで知り合えた仲間を大切にして、互いに力となる関係を築いていくよう、事業団では在学期間を通してサポートに取り組んでいきます。

キャンパスライフ 進学応援生から

4年制大学 心理福祉学部
1年生（男性）

みんなの助けおかげで私は大学に進学して学ぶことができています。私は将来社会福祉士の資格を取って人を助ける仕事をしたいので、大学で頑張っています。私がここまで成長することができたのは、沢山の人に支えてもらったからです。これからも感謝の気持ちを忘れず、また人に感謝される人になれるように頑張っていきます。

4年制大学 文学部
2年生（女性）

この1年間大きな事故や病気もなく、無事に過ごせました。これらは全て寄付をしてくださっている皆様や、それを支えてくださっている方々のおかげです。だからこそ、施設を出ても安定した生活を送っているのです。これからも一生懸命学業に励みます。

4年制大学 国際関係学部
3年生（女性）

皆さんからのご支援を無駄にすることのないよう、残り2年間の学生生活でも新しいことに挑戦していきたいと思います。また、自分自身も誰かを支援できる立場になりたいと感じ、インドネシアでのボランティアを行うことに決めました。やりたいことを、やりたいと思ったその時に出来る環境を作っていました。やりたいことを、やりたいと思つたその時に出来る環境を作つていただき、とても感謝しています。

子どもの福祉

●朝日こどもの未来 ブロック大会

18歳未満の子どものおよそ7人に1人が貧困状態にあるとされています。経済的な問題はもちろん、それにより生じる社会とのつながりや自信の欠如などは、周囲から見えづらく、子ども自身も気づきにくいと言われています。

そうした状況を受け、子ども食堂など、地域の子どもや子育て世帯を支える活動が全国的に増えています。支援に取り組む人たちが互いにできること、協力してほしいことを示し合い、子どもたちへの多様な関わりや、出会い、経験、時間を提供する「連携」が求められています。

各地でその輪づくりに取り組む皆さんを応援するため、18年度より地域ブロックごとの研修会を開催しています。

子どもの貧困 支援者が集合

18年度は九州・沖縄(10月、熊本市)、東北・北海道(2019年2月、仙台市)を対象に実施。民間団体やスクールソーシャルワーカー、行政や社会福祉協議会の職員など多様な立場から子どもの貧困問題に取り組んでいる人たちが集いました。

社会活動家で法政大学教授の湯浅誠さん、東京都豊島区で子どもの居場所づくりに取り組んできた栗林知絵子さんらを講師に招き、先行している取り組みに学びました。

●シンポジウム

「ひとり親をめぐる現状と施策」

ひとり親の福祉を考えるシンポジウムを、研究者や当事者、新聞記者らをゲストに、19年4月に東京で開きました。ひとり親



また単独では解決の困難な子どもの貧困問題に対して、各団体の強みと弱みを理解した先にある地域内でのネットワークづくりのあり方や、各地の地域事情について互いに意見や情報を出し合いました。

参加者からは「地域全体として社会資源の把握や整理、役割分担など見直し、これから何をどうするのか具体的に考えていいきたい」「同じ思いを持っている多くの人となっていました。考えていることを仲間に話し、活動の広がりをつくっていきたい」といった今後の活動への意気込みが聞かれました。

が直面する困難の背景にある社会保障や労働、ジェンダーギャップの問題について整理をしながら、当事者の声や生活から見える現状や課題、必要な施策や支援について掘り下げました。

障害のある人の福祉

●みんなでパラリンピック

高齢者施設と児童養護施設を対象に、パラリンピック正式種目・ボッチャ体験会とブラインドサッカーのワールドグランプリ観戦を実施。障害者スポーツに触れる機会が少ない施設の入所者にその楽しさを知ってもらい、理解を深めるきっかけにしています。



●精神保健福祉地域生活支援事業

精神障害のある人が入院に頼らず地域で暮らしていくために、必要な支援を考える講演会を1月に開きました。また、精神疾患を持つ親のもとで育った人たちのグループの活動に協力しています。孤立しがちな子どもたちが同じような体験を持つ仲間と出会い、適切な支援を受けられる場が各地に広がることをめざしています。



●全国高校生による手話スピーチコンテスト

全国から選ばれた高校生が、日ごろ感じていることを手話で表現し競います。手話の普及とボランティア活動、福祉教育が広がることを目的としています。

●自閉症カンファレンスNIPPON

自閉症の人たちへの最新の支援を知ることができる会議です。専門家の講演や多数の実践報告、ポスター発表など2日間にわたり多彩なプログラムが用意されています。

高齢者の福祉

●国際シンポジウム

「認知症の人にやさしい街をめざして」

認知症の人が住み慣れた街で安心して暮らし続けることができる「認知症フレンドリーコミュニティ（DFC）」について、世界各地の実践を紹介し、これからの取り組みを考えました。5月に大阪で開かれ、約240人が参加しました。



●ゆうゆうビジット

全国各地の高齢者施設を、一流の音楽家や俳優、力士が訪問します。外出の機会が少ないお年寄りに、ミニコンサートや交流を通して楽しく心はずむ時間を提供しています。



●フォーラム「認知症カフェからの出発」

3月に東京で開き、約150人が参加しました。全国で増え続ける「認知症カフェ」の活動を、安心を支える地域づくりにつなげるためにはどのように考え方をしたらいいか、各地で奮闘している様々な立場の人たちが集い話し合いました。

同時に会場に隣接した喫茶店で「お試し認知症カフェ」を実施しました。実際に運営している団体から若年性認知症の当事者を含むスタッフを招き、雰囲気を体験してもらう機会としました。

被災地支援



●西日本豪雨災害

大学ボランティアセンター助成

18年7月に発生した西日本豪雨の被災地域で支援を行う10団体に、活動資金を助成しました。5月には、10団体から合計20名(学生10名、大学職員10名)が一堂に集まり、助成をもとに行った活動の報告会を大阪で行いました。

岡山県倉敷市真備町で、住民とともに地域の将来を考えるワークショップを計11回開いた神戸大学、同じく真備町の仮設住宅の集会所で「折り紙と足湯 たこ焼きパーティー」を実施した中央大学、愛媛県の被災地で、遊びや座談会を通して子どもたちやお母さんへのケアを試みた松山東雲女子大学・短期大学の3校が実践を発表。またすべての団体から活動報告書の提出があり、それぞれの団体の活動を知り、共有しました。

これらの活動に生かすための講義やグループワークの時間も設け、学生たちが交流し学びを深める機会としました。



●朝日のあたる家

東日本大震災救援事業に寄せられた寄付金により、2013年に岩手県陸前高田市に開設されました。現地NPO法人のスタッフが常駐し、介護予防体操や食事会などの様々なイベントを行い、地域の方が気軽に立ち寄れる交流の場として定着しています。

●復興支援プロジェクト

東日本大震災の被災地の方々に、心安らぐひとときを届けています。18年度はバイオリニストの千住真理子さん、ピアニストの丸山滋さんが福島県の浜通り地区を訪問し、2日間にわたって浪江町など6カ所で演奏しました。

●南三陸復興支援

東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町に支援を行っています。復興住宅に隣接して開所した高齢者福祉施設「結の里」で行われる、地域住民の交流を進めるための活動などに助成しています。